

令和 5 年度 小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人梓友会	代表者	川島 優幸	法人・事業所の 特徴	下田市で唯一の小規模多機能型事業所で、下田市全域を営業範囲としている。認知症ケアについて力を入れており、「ミッケルアート」認知症プログラムを活用し、様々な認知症周辺症状の緩和にも対応している。認知症高齢者や独居高齢者も多く受け入れており、安心して地域での生活が継続できるよう支援している。
事業所名	小規模多機能型居宅介護 みくらの里	管理者	平山 悦子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	1人	3人	0人	0人	1人	0人	0人	0人	6人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	適切なケアの推進と、防げる事故に対して繰り返し振り返る機会を作り寒山な歯止めにつなげる。	防げる事故について、原因に基づいた対応策をみんなで検討し、しっかり歯止めすることで意識的に防ぎ減らすことができた。	ヒヤリハットについて、常に意識して予防して行ってほしい。人的ミスを繰り返さない。	業務の見直しにより気持ちに余裕をもって業務にあたり、適切なケアで安心・安全に努める。
B. 事業所のしつらえ・環境	感染症 BCP に基づいた、訓練・勉強会の実施。	利用者からの感染で職員中心にクラスターが発生してしまった。BCP に基づいて早期に対応ができ、訓練にもつながった。	体調管理に気を付けながら、感染症対応の継続をしてください。	感染症に気を付けながらも、工夫されたしつらえで来訪したくなる施設づくりに努める。
C. 事業所と地域のかかわり	地域の方向けの介護講座や、利用者が参加したい地域行事に活発に参加する。	介護教室や地域サロンでの出張講座等の依頼を受け、地域の介護拠点としての活動ができた。	小規模多機能型居宅介護事業所の本来の目的・役割を果たせるよう続けていってください。	地域や家族の介護講座等、地域の介護相談窓口としての役割を担う。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	必要時にいつでも支援できる体制を整え、自分らしい生活の実現を支援する。	選挙や健康教室等、地域で行われる行事に参加できるよう支援することができた。	小規模多機能型居宅介護事業所の本来の目的・役割を果たせるよう続けていってください。	生活支援と合わせて地域活動参加支援も常に行える体制を整え、自分の望む生活を支援する。
E. 運営推進会議を活かした取組み	対面会議の復活と、地域での心配事等についても議題に入れていく。	地域の未使用施設再利用による誰でも集まれる居場所づくりについて話し合うことができた。	対面会議の方が話が理解やすく、いろいろな内容を話し合える。	地域での心配事に対し、どのような支援ができるか検討し、協力する体制を作る。
F. 事業所の防災・災害対策	BCP に添った防災訓練の実施。	災害 BCP の見直し、修正。	水害等状況については、避難するよりも籠城の方がいい場合もあるため、情報を確認していく。	災害時シュミレーション訓練の実施